親子クイズ 291

これは何でしょう

答えについての思い出などもお待ちしています。

■しめきり　7月15日(月)必着
■あて先　〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市企画課
親子クイズ係
■賞品　正解者の中から抽選で5人の人に図書券を進呈

◎第290回親子クイズの答えは、ムギでした。

第290回当選者発表（敬称略）
（応募総数18通）
中沢　亜子（浜改田）
青木　佳子（緑ケ丘）
坂本　早苗（久礼田）
藤原　未来（大埇甲）
野口　大輔（久礼田）

みんなの広場

思い出がいっぱい

◆おばあちゃんが、おしょうゆを作るために畑に作っています。（大畠幸子）

◆冬、麦の小さい時は麦踏みをしたり、初夏には黄色くなった麦畑でかくれんぼをして遊んだり、麦刈りを手伝ったことでした。また、脱穀した麦藁で虫籠を作りました。今は金色の麦畑を見ることもなくなり遠い遠い昔の思い出となってしまいました。（竹島　恵）

◆義母が、お花に生けると良いと、毎年ヨメが取る時に、私の分も適当な量を届けてくれます。それまで麦を間近に見て、こんなに素晴らしいとは思いませんでした。そえ花で生きて花瓶を見事に飾ってくれます。（青木佳子）

◆先日、娘の保育園で麦を使って、シャボン玉をしたそうです。（西森美保）

◆最近に麦の畑も見なくなりました。昔はよく見かけたものです。（山田　晃）

みんなでまちを美しく

六月を環境月間と定め、全国でさまざまな美化事業が行われましたが、市でも環境美化意識の高揚を図ろうと、二日の市内一斉清掃や、三日の老人クラブによる市役所庭園の清掃作業、十七日の四国電力社員らによる国分川の清掃作業など、各地区でまざまな事業が行われました。

市内一斉清掃でゴミを収集する市民

環境美化行動の日である六月二日、我がまちをきれいにしようと、朝早くから地域ごとに市民約一万人が繰り出し、清掃除や空き缶拾いなどのゴミ収集に汗を流しました。（写真Ⅱ左）

収集したゴミは市職員らの手で千豆崎の処分場に集められました。

お金奉仕の日

六月三日、上大埇の老人クラブ「西部千寿会」のメンバーによる、市役所の庭園清掃（除草）が行われました。（写真Ⅱ右）

秋の社会奉仕の日の事業とともに年二回実施しているそうです。

お年寄りらの朝早くからの作業に、深々と頭を下げて入庁する市職員の姿も見られました。

六月十七日、国分川清掃作業が行われました。（写真Ⅱ左）

四国電力山田営業所所員と「国分川をきれいにする会」が協力して昨年から始めたもので、この日は約二十人が参加、参加者は川の中に入ったり、ボートを使うなどして、ゴミを拾い集めていました。

からくり創造工房が落成

第2・第3の半蔵誕生を

地方からの発信として、全国的にも大きく報道されるなど、市民にとっても楽しみな施設として、市民体育館の敷地内に建設が進められていました「からくり創造工房」がこのほど完成。六月二十七日落成式が行われました。

機械工業会の垣内保夫さんが私費を投じて建設し、市へ寄贈したもので、木造平屋建て百五十二坪。研修室と二作室などがあります。

今後、工房は人形の復元作業と市内の少年少女発明クラブの活動などに使用されるほか、将来は、市民ギャラリーが自由に使用できるようにしていきたいと計画しています。

江戸時代の万能科学者、細川半蔵が南国市の出身だったことからその偉業をたたえるとともに、将来に第二、第三の半蔵誕生を期待して、まもなく運営が開始されます。

短歌

「休む」とは木に寄りかかる人の意や
椅の柱背にこころあそばす
西野田町　吉川　定子

すれ違い愛称呼ばる高知の夜
面影に立つその人も逝く
後免町　刈谷　益子

青空に入道雲は飾り立ち
夏の気配のただよい来たる
十市　細川　頃磨

朝夕に水やり愛でし花ひらく
見せたき主は待たず株立つ
後免町　伊藤　愛子

俳句

花蘇枋父の腕組見たような
大埇甲　川田　五志

ライターの火の真壮升扇れゆく
後免町　中村　竹子

蚊柱をへし折っている自己嫌悪
西野田町　山岸　雅恵

川柳

農を退きゲートボールに天下り
田村　川口　岩春

母の日も母には知れずホーム暮る
十市　八松　久幸

先月号のミニ・アサガオの記事で「品種改良…」とありましたが、「第一発見者の今西誉さんが、大きさを自由に調整するなどの改良を加えた後、それを譲り受けた田渕さんと今西さんのお二人が、それぞれ研究を進めています」と補足します。